

Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート



Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通した「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度の新型コロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

カテゴリ：

心構え・マインドセット

開催日時：2020年3月17日

講師：

日本マイクロソフト株式会社
エバンジェリスト・業務執行役員
西脇資哲氏

テレワークに必要なマインドセットとテクノロジー

マイクロソフトの製品とサービスを社会に広める「エバンジェリスト」である西脇氏。講演や執筆活動に加えて、企業や学校でのITを使ったプレゼンテーション講座なども行っています。仕事柄、各地への移動が多いこともあり、「もともとテレワークをやっている」（西脇氏）そうです。

では、今からテレワークを導入する企業や個人はどのような心構え（マインドセット）をして、どんな機材（テクノロジー）を用意すればいいのでしょうか。まずは心構えから。「Wikipediaによれば、テレワークとはICTを活用し時間や場所の制約を受けずに、柔軟に働く形態のこと。『制約を受けずに』の部分が特に重要だと思います」（西脇氏）

かつての勤労形態は3F（Fixed）であり、テレワークという新しい勤労形態は3A（Any+）だと西脇氏は表現します。すなわち、時間と場所とデバイスが決められてしまっている働き方に対して、今後はいつでもどこでも働けるようになっていくのです。デバイスも会社のPCに縛られることはありません。



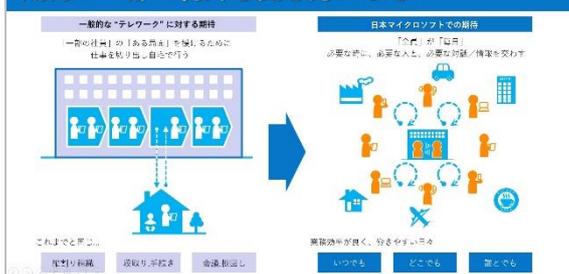
日本経済新聞で紹介されたIT「伝道師/エバンジェリスト」。マイクロソフトにて多くの製品・サービスを伝え広めるエバンジェリスト。講演や執筆活動も行い、IT企業だけでなく、製造業、金融業、官公庁から小学校、中学校、高校や大学でのプレゼンテーション講座を幅広く手がける。2014年から文部科学省が定めるSSH（スーパーサイエンススクール）を各地で展開しており、ITに関する授業やプレゼンテーション授業を行う。2014年から筑波大学附属駒場中高でのプレゼンテーション授業を6年間担当など多数。2015年から立命館小学校でのプレゼンテーション授業を5年間担当し、その内容が書籍「プレゼンドリル」にもなっている。2017年には授業の様子がNHK EテレのTVシンポジウム「人工知能の時代、今必要な教育とは」にて特集される。その他にも教員向け勉強会や、教育委員会主催のイベントでも「伝える力」の重要性を広める。2015年からは京都大学IPS細胞研究所山中伸弥所長のコミュニケーションアドバイザーを務める。著書に「エバンジェリストの仕事術」、「プレゼンは「目線」で決まる」、「新エバンジェリスト養成講座」など。



「通勤時間はなくなり、気分に応じた服装で、生産性が高くなる場所で働くことができます。私は音楽が流れている場所が好きなので、カフェなどで働くことも多いです」（西脇氏）

Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

期待：一部の特殊な働き方にしない



テレワークは効率良く仕事しながら自分の生活スタイルを大切にできます。それは特別な働き方ではない、というマインドセットが何より大事だと西脇氏は強調します。「育児や介護が必要な人だけ、コロナ対策のためだけ、という考え方はテレワークの効果は上がりません。企業の文化や意識の改革が必要なのです。マイクロソフトでは、全員がリモート前提で働いています」（西脇氏）
今後は、自宅を含むあらゆる場所で働き、営業活動へのオンライン同行やオンライン会議が普通になっていくことでしょう。その際に重要なのは、「会話や資料ではなく、反応や感情を共有する」（西脇氏）という視点です。

「他の人の成果に対しては『いいね！ お疲れさま。今日はゆっくり休んでね』とメッセージを送り、ビデオ会議では合いの手やうなずきを大きくするなど、大げさなぐらい反応しましょう。テレワークはお互いが物理的に離れているので、疎外感を感じやすいからです。感情を共有してチームの一体感を醸成できればテレワークは成功します」（西脇氏）

私たちはすでに私生活で LINE や Facebook、Twitter、Instagram を使うことに慣れて言います。これらの SNS では「いいね」を送り合い、共感が可視化され、感動をバーチャルに共有できるところに楽しさがあります。テレワークを効果的かつ持続的なものにするためには、同じ考え方をすればいいと西脇氏は語ります。「ハートマークを付けることに、最初は勇気が要る人もいるでしょう。でも、何事も慣れます。ポジティブな反応をどんどん付けていきましょう」（西脇氏）

次に、西脇氏はテレワークで必要になる機材と使い方のコツを紹介しました。メールとチャットを担うコミュニケーションツール、作成した資料などをアップする情報共有ツール、そして画面上で顔を合わせて会話するビデオ会議ツール。テレワークには、大きく分けるとこの3つのツールが必須です。

西脇氏は「自分はマイクロソフトの人間」と前置きした上で、すべてを1つで済ませることができる Teams を推奨します。他社のツールにもそれぞれの利点がありますが、仕事で使う場合には作業によってアカウントを切り替えるなどの煩雑さは避けたいからです。「まずは使ってみることが大事です。ネット上に身を置いて、他の人と反応を共有することに慣れてください」

多くの人が使っていないのがビデオ会議です。コツとしては、会議の主催者が開始時と終了時をリードすることが肝心だと西脇氏は指摘します。「開始時には、参加者は誰がいて、何分ぐらいの会議にするのか、会議の目的などを述べます。『議事録は取りません。この会議は録音されているから』などと言い添えるのもいいでしょう。終了時は主催者が会議で決まったことなどを簡単にまとめ、次回の予定を確認し、参加者へのお礼を伝えます」目的のはっきりしない会議で生産性を下げるのは避けたいところです。非公式のコミュニケーションで一体感を醸成するためには、リモート飲み会やリモートランチを有志で実施すると良いでしょう。

ビデオ会議で気を付けるべきこと

- 会議の開始、終了を主催者がリードする
 - 開始時：会議の目的、参加者、時間、意気込みなどなど、議事録はどうするか
 - 終了時：ToDo の再確認、次回の予定の確認、参加者へのお礼、議事録の場所
- 何をやる会議なのかを明確にする
 - 目的のない会議はやめるべき（報告会や定例会などなど）
- 参加者は自分の役割を明確にする
 - 自分はこのビデオ会議でどういう役割があるのかを意識する
 - 役割が無い会議には出る必要はない

どんなデバイスでも仕事に使えるのがテレワークの特徴ですが、ビデオ会議にはヘッドセットを用意することを西脇氏はおすすめします。環境音を拾ってしまうことがなく、ミュート（消音）などを手元で簡単に操作できるからです。

最後に、テレワークと評価制度について。労働安全改正法で「労働時間の客観的な把握」が求められています。Office365 には利用状況を把握して分析する機能がありますが、西脇氏はより「面白いやり方」を伝授。Teams に全員参加のスレッドを作り、始業時は「おはようございます」と挨拶し、終業時は「今日の仕事を終わります」と書き込むことでタイムカード代わりとするのです。「『犬の散歩をして来ました！』と愛犬の写真を入れて『これから仕事を始めます！』などと始業の報告をするのもおすすめです。テレワークは生活の中に仕事が入って来ているので、コミュニケーションもカジュアルなものにしていきましょう」（西脇氏）

従来の働き方は、仕事（オン）と生活（オフ）が分かれていました。テレワークは「生活の中に仕事が入って来ている」（西脇氏）のです。無駄な制約や義務で縛るのではなく、成果重視で仕事を効率良くこなす人を評価する仕組みへの移行が求められています。